チョウとの出会い：オオゴマダラ　120110

オオゴマダラは大阪伊丹昆虫館など、自然発生地でなくても生きた姿をみることができ、整髪料などの香気成分に惹かれて来館者の頭にとまったりする愛嬌のある大きなチョウで、その蛹の体全体が黄金色に輝くことでも有名である。沖縄以南の南西諸島に産し、遠い位置でフワリフワリと飛翔する本種の姿は新聞紙か何かが風で飛ばされているようにも見えてしまうのどかさだ。筆者は 1993 年に初めて訪れた石垣島川平地区で、休耕畑地の北側に茂る樹林帯の周辺を漂うように舞う本種をうっとりと眺めたのが初の出会いだ。その後、与那国島で捕獲した新鮮個体の翅表が光線の当たり具合で微妙に金色に輝くのを目にして、ただの白黒マダラ模様のバカでかいチョウだと思っていたのに、黄金色の蛹の成分がチョウになってもいくらか残っていることを知って認識を新たにした。以下、紀行文の関連記述を一部改変して転載。

Oct. 11, 1996：与那国島アギンダ

ミカン畑がまばらに広がる斜面を終点とする右手山側では，名前の分からない白い花がまだつぼみ状態だというのに，羽化してまもない新鮮できれいなスジグロカバマダラが群れ飛んで吸蜜している．赤土となった細道を奥の方へと下ると，交尾中のオオゴマダラが悠々と頭上を横切って飛ぶ．時刻は午後の 3 時頃だっただろうか．この時刻，あちこちにスジグロカバマダラの交尾個体が見られる．数にして一目十数組というペアで，八重山のどこに行っても個体数が多いわけだと納得する．

Sep. 20, 2004：石垣島バンナ公園

ツマムラサキマダラがもぐりこんだところにホウライカガミが棚を組んで植栽されており，派

手な色のオオゴマダラの幼虫をたくさん目にすることができる．やはり今はまだ幼虫の段階で蛹には早いんだと納得しかけたそのとき，よく見れば金色に輝く蛹もいくつかぶら下がっているのに気づく．なかには黒ずんで羽化間近という蛹もある．さっそく道路から一段下がったこのホウライカガミ棚の中へと，足元に注意しながら入り込んで存分にシャッターを切る．

Nov. 4, 2007：西表島南風見田

西表島到着後は、信号そばのオリックス事務所で予約したレンタカー：HONDA Fit を借用し、雨が本降りとならないうちに南風見田地区で蝶探索をする。昔に訪れた浜辺へと続く路傍の林周辺で、オモト林道でみた個体より鱗粉が褪せているせいか近似の迷蝶かと思ってしまうリュウキュウアサギマダラと配偶行動をみせるオオゴマダラを見られた以外に成果はなし。

Copyright© 2009- Soft House JUMP. All rights reserved.